

<問題提起>

“みんなで考えよう、山のトイレ問題”

山のトイレ対策 ～これまでの成果、今後の課題～

上 幸雄（日本トイレ協会）

〔1〕はじめに

山のトイレ問題については、一部の熱心な自治体や山小屋で先行的にトイレ対策を講じてきた。研究者や民間企業でも、バイオや燃焼技術を生かして新しい技術やシステムの開発にあたってきた。一方、山岳団体でも、日本山岳会や日本勤労者山岳連盟などでいち早くトイレ問題を取り上げ、研究会やシンポジウムを開催してきた。その結果、山のトイレ・し尿処理問題についての重要性が次第に関係者に認識されるようになった。しかし、それらの動きは断続的で、全国的なうねりとはならなかった。

山のトイレ問題が、本格的に全国的な問題として取り上げられることになったのは、1998年に山梨県での「第1回全国トイレシンポジウム」からであったといえる。そこでの最も大きな成果は、さまざまな分野の関係者が集まり、情報や意見を交換できたことであった。それ以来、第2回を2000年に東京で、第3回を2001年に長野県松本市で開催し議論を深めてきた。この間には、山小屋や自治体で多くの実施事例を産み出し、環境省の民間山小屋に対する補助制度を創設するなどの前進があった。山のトイレ問題は改善に向けて大きく動き出したといえる。

しかし、全国的に見れば、一部の知名度の高い山や規模の大きい山小屋を中心に、トイレ・し尿処理対策が進んでいるに過ぎない。第3回のシンポジウムで提案された“登山コース”、“山岳全体”でのトイレ整備はおろか、現状では多くの山域で個々の山小屋レベルで改善すべき状況にある。

ここでは、これまでの成果をまとめ、今後取り組むべき課題について整理することにした。私たちがそれぞれの立場でこれから、いつ頃を目標にして、何をすべきなのかを明確にしていく必要がある。その内容に関し、下記のとおり〔問題提起〕として試案を示し、シンポジウム参加者の討議のたたき台としていただきたい。

〔2〕これまでの成果

1. 総論から各論へ

- (1) 山でのトイレ整備、適正なし尿処理をすべきとの考えは合意できた。
- (2) 改善方法について、どんな方法があるかについてのメニューづくりはできた
- (3) 山岳団体、山小屋、行政、企業・研究者が取り組むべき課題は見えてきた。

2. 改善すべき課題の整理

- (1) 制約条件（道路、電気、水など）下での技術開発
- (2) 技術の安定化に向けた性能評価システム、研究開発への支援体制
- (3) 廃棄物行政、環境行政での政策調整など、行政間の調整と支援制度の充実
- (4) 各セクターの役割分担、責任体制の確立と実践
- (5) PPP原則 (polluter pay's principle = 汚染者負担の原則)、PFI制度 (private financial initiative = 公共事業民間活用制度) などの考え方、手法の検討

〔3〕各セクターの役割と責任

～山岳トイレ改善に向けた実践方策と行動プラン～

- (1) 国 …… ①補助制度の拡充、公共施設の整備、研究体制の整備
②省庁間の調整と迅速な対応…自然公園法、森林法、文化財保護法など
- (2) 自治体 …… 補助制度の拡充、施設の整備
- (3) 山小屋 …… 管理型トイレ・し尿処理方式への転換
- (4) 入山者 …… ルール・マナーの徹底、受益者（汚染者）負担
- (5) 山岳会 …… 21世紀登山の提唱、未組織登山者の指導
- (6) 観光産業 …… 受益者（汚染者）負担、ガイドの質的向上
- (7) 開発企業 …… 技術・システム開発、性能評価への参画

〔4〕本シンポジウムでのねらいと提案

1. 技術システムの設置・整備に向けて

- (1) 改善方法の選択手法
- (2) 性能評価システムの導入

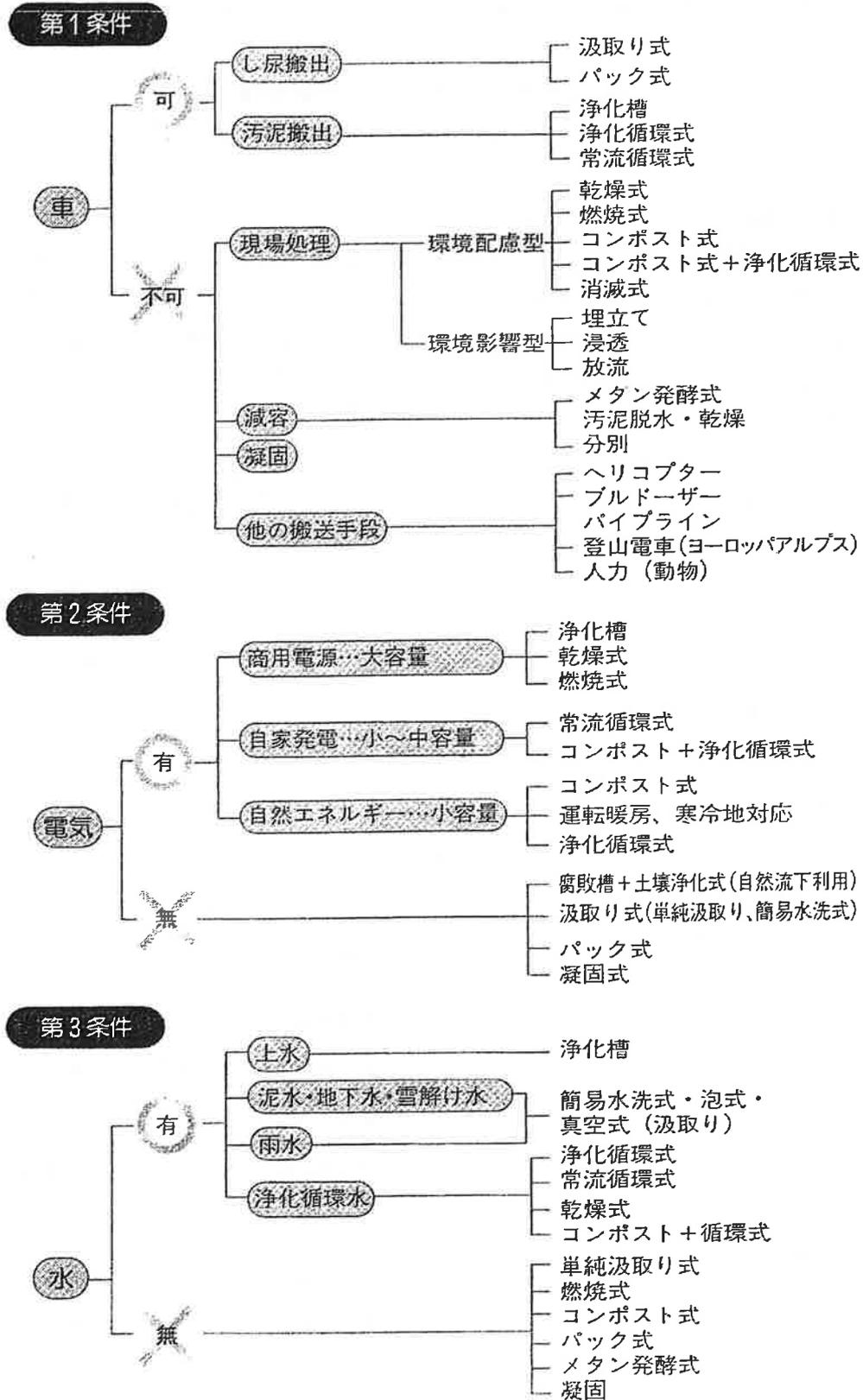
2. 「21世紀型登山の提唱」に向けて

- (1) “挑戦型・目標達成型登山”から“環境配慮型登山”への転換
- (2) 登山基地、コースの整備と登山方式の改善

〔5〕参考資料

- (1) 「どうする山のトイレ・ゴミ」（大月書店刊）
- (2) 「平成13年度 山岳環境浄化対策推進方策検討調査業務 報告書」（環境省）

図⑯ 車のアクセス、水、電気の条件によるし尿処理方式の現状



(日本トイレ協会作成)

出典:「どうする山のトイレ・ゴミ」(大月書店刊)